

日本語学習に関する大学生の特性 —ビリーフ調査を中心に—

磯 太恵子

要旨

本稿では大学1年生が後期から出席率が下がる理由を知るために、ビリーフと上達させたい能力について調査した結果を報告する。日本語学習に関して上達したい言語能力について「会話」「聴解」「発音」「作文」「読解」「語彙」の6つに順位をつけてもらった。ビリーフの調査はBALLI 質問表を用いて5領域50の質問項目で実施した。調査の結果、上達したい言語能力は「会話」が1位だった。ビリーフでは会話や日本人との交流を好む積極的姿勢があり、日本語は習得できると考えている。教室活動では参加型授業を求め、コミュニケーション型授業を好み、言語習得には教師の助けが必要だと考えており、教師に対する期待が高いことも窺えた。

今後はカリキュラムを改定し学習者が望むコミュニケーション型で参加型の授業を増やすことを提案したい。また教師に助言を求めているという特性を把握した教室活動を行うことも同様に重要である。今回の調査は学年単位の全体的な傾向であり、個々人の学生のビリーフを知ることは出来なかった。詳しいビリーフ調査を記名方式で行うことも視野に入れて、個人的なビリーフを知り、指導ができるかが今後の課題である。

キーワード

会話、ビリーフ調査、言語技能、参加型授業

1. はじめに

短期大学は一般的に2年生で卒業で、単位を落とした場合は挽回できず卒業できない可能性が高い。しかし日本語総合授業で後期から出席率が悪くなるクラスが少なくない。その対策のひとつとして2つの調査を行った。1つ目は日本語学習に関して上達したい言語能力の調査で、2つ目はビリーフの調査である。学習者は一般的に言語学習に関しての言語学習方法や効果についての考えを自覚的に、あるいは無自覚に持っていると言われており、その「学習観」をビリーフという。Horwitz (1987) は、教室活動がビリーフと一致せず、授業が彼らの期待に当たっていない場合は、学習到達度が限られる可能性があるとして指摘している。また、池田・舘岡 (2007) も学習者は自分の「学習観」をもっており、外国語を上達させるには学習観を把握することが必要だと述べている。学習者のビリーフを調査することで特徴を俯瞰でき、彼らの意見を把握できると思われる。また学習者の上達したい能力を調査することで優先順位をカリキュラムに反映でき、学習効果を期待できる可能性がある。従って、この2つの調査を分析し、出席率を下げないようにカリキュラムの改善が必要であるのかを考察する。

2. 先行研究

様々な国において、学習者のビリーフ調査報告や考察が行われている。ビリーフ調査では Horwitz (1987) が作成した 5 領域・34 問の質問項目からなる BALLI (Beliefs About Language Learning Inventor) を使用している。Horwitz は英語学習者と教師のビリーフ調査を実施して、学習者のビリーフが様々あることや、学習ストラテジーに影響していることなどを明らかにした。

日本語教育の分野では岩井・岩澤 (2004) がハンガリーで調査を行い、大学卒業試験制度の影響で語彙力重視の傾向があると指摘し、言語使用において「正しく話す」ことのみが重要ではないと感じていると報告している。和田 (2007) はスリランカの大学生を対象に調査を行った結果、学習者はコミュニケーション能力の向上を重視して、それに沿ったシラバスと教授法を希望している。しかし、一方で、現状は文法訳読法中心の授業であり教師のレベルも N3 が多いから、教師の能力向上の研修が必要であると指摘している。阿部 (2009) はスペインの大学生を対象に上達させたい言語技能とビリーフを調査したところ、最も上達させたい技能は「会話」であることが明らかになった。ビリーフは外国語習得能力があると日本語も習得できるという楽観意識があり、教師に学習目標を到達させるための教室活動を求めており、依存性が高いと報告している。

3. 調査

3.1 調査概要

調査の協力を依頼したのは 2017 年に入学した 4 クラスの 52 名の学生である。中国語、ベトナム語に訳した質問紙調査票を用いて調査を行った。実施期間は 2018 年 2 月上旬の 1 週間で、授業の後に行った。日本語学習に関して上達したい能力について「会話」「聴解」「発音」「作文」「読解」「語彙」の 6 つに順位をつけてもらった。ビリーフ調査について Horwitz (1987) が用いた BALLI 質問表を原本として採用した。質問は、阿部 (2009) と高崎 (2014) を参考に一部改編し 50 項目とした (本稿末参照)。質問は①「言語学習の適正」、②「言語学習の本質」、③「学習とコミュニケーションストラテジー・教室活動」、④学習動機、⑤「教師の役割と学習者の自立性」の 5 領域に類別した。質問項目の内、学習者が持つ外国学習全般における質問、すなわち、①、②、③の各項目は Horwitz (1987) から採用した。また、この調査の目的である現状の改善を考察することを考え、阿部 (2009)、高崎 (2014)、和田 (2007) より、④と⑤の項目を作成した。回答は (1) 強く賛成 (2) 賛成 (3) 賛成でも反対でもない (4) 反対 (5) 強く反対の 5 段階の数値で回答してもらった。

表 1 調査対象

時 期	2018 年 2 月	年 齢	19 歳から 32 歳 平均 20 歳
対 象 者	大学 1 年生 合計 52 名	性 別	男性：24 名 女性：28 名
平均学習期間	7 ヶ月から 37 か月 2 年 8 か月	国 籍	中国：49 名 ベトナム人：3 名

4. 調査結果

4.1 上達させたい言語技能

上達させたい技能に「1位」を付けた人数の内訳は表2のとおりである。最も上達させたい技能は「会話」(56%)であり、最も低いのは「語彙」(2%)である。これは阿部(2009)高崎(2014)と同じ結果であり、外国語学習の一番の関心は会話や聴解を上達させることであり、コミュニケーション能力を向上させたいことを示している。

表2 上達させたい技能に「1位」をつけた人数

会話	聴解	発音	読解	作文	語彙	合計
30名	15名	3名	2名	2名	1名	52名
56%	28%	6%	4%	4%	2%	100%

4.2 ビリーの調査結果の集計と分析

ビリーに関する質問は5領域50項目を設けた。「言語学習の適正」「言語学習の本質」「学習とコミュニケーションストラテジー・教室活動」「学習動機」「教師の役割と学習者の自律性」である。先行研究と同様に解答は(1)強く賛成(2)賛成(3)賛成でも反対でもない(4)反対(5)強く反対の5段階の数値で回答してもらった。調査結果は、回答の平均値を集計した。

4.2.1 言語の学習の適正

表3から、学習者の日本語習得の難しさをどう感じるかを問う回答を見ると習得ができそうだと肯定的に考えていることがわかる(項目1,2,8)。日本語は難しさを項目3で問うているが、平均はほぼ3(どちらでもない)と学習に否定的といえない。したがって以上の結果から日本語を習得できると期待しており、肯定的であると言って使われてよいと思われる。

性別によって言語学習の適正が異なる(項目15)は否定的とは言えない。ただ、言語学習には特別な才能を持った人がいるという考え方(項目6)に肯定的で、大人より子供の方が外国語学習に適していると考えている(項目5)。

表3 言語の学習の適正

項目	内容	平均
1	外国語を学ぶのはやさしい	2.47
2	私の国の人には外国語学習が得意である	2.37
3	外国語(日本語)は難しい言語だ	2.91
5	外国語学習は大人より子供のほうがやさしい	2.12
6	外国語学習について特別な才能を持っている人がいる	2.26
8	私は将来外国語(日本語)を習得できると思っている	2.14
15	女性は男性より外国語学習が得意である	2.7
42	すでに1つの外国語を習得している人は、ほかの言語を学ぶのが容易だ	2.84

4.2.2 言語の学習の本質

表4より、時間をかけて学習を繰り返す必要性は肯定的に捉えている（項目9, 14, 16）。パターン、語彙、文法が必要なことも肯定的に捉えていることがわかる（項目22, 24, 47）。

日本語の文化（項目4, 26）を学ぶことや現地での学習の有効性（項目30）も効果的であると捉えている。

聞くよりも話すほうが易しく、話すより読み書きするほうが難しいとしていることから会話に必要な聞く能力、話す能力の向上を求めている（項目38, 40）。

以上を考察すると、繰り返し学習や、パターン、語彙、文法の必要性は理解しているから、カリキュラムではこれらを取入れても受け入れられると思われる。

なお文化を知ることについて関心が高いため、これをカリキュラムで活用するとより留学生の学習意欲をひきだすことができると思われる。

表 4 言語の学習の本質

項目	内容	平均
4	外国語を学ぶには、外国の文化、人気のある音楽、漫画などを知っているほうが便利だ	2.05
9	外国語習得には時間がかかる	2.16
14	外国語学習には何度も練習することが大切だ	1.91
16	授業以外でも自習が必要だ	1.95
19	外国語は記憶力が必要だ	2.24
22	外国語の使い方の規則（パターン）がわかったら覚えやすい	2.37
24	外国語学習の中で一番重要なのは、語彙の学習である	2.51
26	外国語を話すために外国の文化について知っている必要がある	1.95
30	外国語学習は、その外国語が話されている国で行うのが一番よい	2.05
35	外国語学習の中で一番重要なのは文法である	2.38
37	外国語学習の方法は、他の分野の学習と異なる	2.24
38	外国語を話すより、読んだり書いたりするほうが易しい	2.44
40	外国語を聞いて理解するよりも話すほうが易しい	2.47
47	わからない外国語の単語はかならず辞書で調べるべきだ	2.23

4.2.3 学習とコミュニケーションストラテジー・教室活動

ビリーフの調査目的のひとつに、適切な学習ストラテジーを学習者に教えることが挙げられる。外国語習得のストラテジーとは学習者が学習効果を上げるために使う特別な態度や思考過程のことをいう。糸井（2003）は、もし先生が学習者のビリーフを事前に理解しているならば、学習者にとってもっとも適したストラテジーが助言できると述べている。これに従って効果的な授業の方法を調査結果から導き出してみたい。

表5より、日本人との日本語の練習は楽しく外国人に習うのが一番よいとしている（項目12, 13）。会話についてきれいな発音で話すことを重要視しており（項目20）、日本語の音声の訓練が重要だと認識していると思われる。

さらに学習者が積極的に参加する授業を好み（項目45）、学習内容はコミュニケーション能力を伸ばすことに（項目46）賛成する意見が多い。

以上より、参加型、コミュニケーション型な授業がよいと思われる。ただし授業は聞いているだけでよい（項目 48）、正しく言えないと話すべきではない（項目 49）、学習者同士で話しても役に立たない（項目 32）との意見もあるため、日本人に協力してもらい、授業に参加してもらおう機会を作るなど、工夫が必要である。また、文法学習には母語のテキストを使うことや外国語の発音の誤りは初期段階で解決する工夫も考える必要があると思われる。

表 5 学習とコミュニケーションストラテジー・教室活動

項目	内容	平均
12	日本人との日本語の練習は楽しい	2.09
13	外国語を習うとき、外国人に習うのが一番よい	2.26
18	外国語を学ぶには、母語の文法で説明しているテキストが必要だ	2.23
20	きれいな発音で外国語を話すことが重要だ	1.79
29	外国語学習の誤りは、初級レベルで訂正しなければ、後で訂正するのは難しい	2.33
32	教室では学習者同士で外国語（日本語）を話しても学習の役に立たない	2.57
41	iPhone のアプリや CD など練習することは重要だ	2.65
44	もし単語がわからなくても、推測すれば大丈夫だ	2.42
45	学習者が積極的に教室活動に参加するような授業は良い授業だ	2.07
46	学習内容は生徒のコミュニケーション能力が上達することに力を入れるべきだ	2.12
48	授業中は先生が生徒に話させるより、聞いているだけのほうがよい	2.67
49	正しく言えるようになるまでには外国語は話すべきでない	2.79

4.2.4 学習動機

学習の動機と期待に関係する設問である。表 6 より、日本語習得は就職に有利である（項目 27）と考え、外国人の友人を作りたい（項目 31）と強く希望していることがわかる。外国語を学習する上で、その言語が話されている国や人々と関わりたいと思うことは自然なことと思われる。

表 6 学習動機

項目	内容	平均
27	もし日本語が上手になれば、良い就職のチャンス（機会）がある	1.86
31	私は外国人の友達を作りたい	1.79
39	はっきりした目的があれば外国語の上達がはよくなる	2.21

4.2.5 教師の役割と学習者の自律性

表 7 より、教師の影響は大きく（項目 17）、問題点や困難点を教えてくれる（項目 43）よい教師が求められている（項目 50）ことにより教師の役割は大きい。

教師に期待されるのは問題点や困難点を教えること（項目 43）に加えて、アドバイスをすること（項目 25）、宿題を出すこと（項目 36）、評価をすること（項目 21）などである。

る。一方で自分のやり方と違って先生のアドバイスに従う（項目 33）、評価は教師からされるべきだ（項目 21）は他の質問に比べて賛成が少ない。学習の進め方の決定については学習者の自律性も考慮する必要があると言えるだろう。

表 7 教師の役割と学習者の自律性

項目	内容	平均
17	最初の日本語の先生が日本語を学習するうえで私に大きな影響を与えた	2.33
21	学習者の評価は教師からされるべきだ	2.63
25	外国語を学習するとき、教師にアドバイスを求めるのが好きだ	2.51
33	たとえ自分のやり方と違って先生のアドバイスに従う	2.63
36	宿題は教師から出されるべきだ	2.51
43	教師に自分の外国語学習上の問題点や困難点をおしえてほしい	2.3
50	外国語学習に成功するにはいい教師が必要だ	2.26

5. 考察

調査の結果から、上達させたい言語技能は「会話」であることは明らかである。またビリーフの結果も同様で日本語での会話や、交流を好む積極的な姿勢がみられる。

ビリーフでは聞くよりも話すほうが容易で、話すより読み書きするほうが容易だとしており、会話に必要な聞く能力、話す能力の向上を求めている。きれいな発音で外国語を話すことが重要だとしているが、正しく言えなければ話すべきでないとは思っておらず、コミュニケーションを取ることが大切だという姿勢がみられる。

一方、日本語習得に関して、習得できると期待しており、楽観的な傾向がある。教室活動では参加型授業を求め、コミュニケーション型授業を好む。教師の役割は重要で学習が困難な時にはアドバイスを求めており、言語習得には教師の助けが必要だと考えている。

今回の調査では参加型授業が有効なことがわかった。会話やグループワークを行う協働学習を取り入れる方法などが考えられる。

出席率を下げないよう授業に参加する動機を持続させるため、カリキュラムを改訂し学習者が望むコミュニケーション型で参加型の授業を増やすことを提案したい。

今回の数字は学年単位の全体的な傾向で、個々人の学生のビリーフを知ることは出来ないため、学生の抵抗がなければさらに「会話」に関して詳しいビリーフ調査を記名方式で行うことも考えられる。ビリーフの調査をすることで、どこまで個人的なビリーフを知り、指導ができるかが今後の課題である。

6. まとめ

本稿では、日本語学習に関する言語能力のビリーフ調査を実施し、その結果から上達させたい技能は会話であることがわかった。会話を上達するために聞く能力、話す能力を向上することを求めており、コミュニケーションを取ることが大切だという姿勢がみられる。

また、参加型授業が有効であることがわかったことから、グループワークを行う協働学

習を取り入れることで授業に参加する意欲を持つようにしていきたい。今後は具体的にはテーマを決めてグループごとに日本人学生の前で成果発表を行う活動、また教室外へ出かける活動も取入れるべきであると考えます。

今回の調査により、学生が求める授業を捉えることができたが、結果をもとにどう授業を改善していくかが課題である。本稿で提案した授業の改善案などを取り入れ、その結果の調査を行い有効性を確認することで授業を再考できると思われる。またできればビリーフ調査を記名方式にして自由記述部分も加えて行うことで充実した調査を実行したい。それらの結果を踏まえて学習者が授業に持続して参加したい授業になるように反映したいと考えている。

(磯太恵子いそたえこ・山野美容芸術短期大学・isotomita@gmail.com)

参考文献

- 阿部新 (2009) 「スペイン・マドリードの大学における日本語学習者の言語学習ビリーフ」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 37, 25-62.
- 池田玲子・舘岡洋子 (2007) 「ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために」『ひつじ書房』
- 糸井江美 (2003) 「英語学習に関する学生のビリーフ」『文学部紀要』 16(2), 85-100.
- 岩井誠二・岩澤和宏 (2004) 「ハンガリー人日本語学習者のビリーフス」『日本語国際センター紀要』 14, 123-140.
- 片桐準二 (2005) 「フィリピンにおける日本語学習者の言語学習 Beliefs」『国際交流基金 日本語教育紀要』 1, 85-101.
- 和田衣 (2007) 「スリランカの大学生の言語学習ビリーフから日本語教育の改善を考える」『国際交流基金 日本語教育紀要』 3, 13-28.
- HORWITZ, K. E. (1987) Surveying Students Beliefs About Language Learning, in A. Wenden and Rubin J. (eds.), *Learner strategies in Language Learning*, Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall, 119-129.

調査報告

磯 太恵子/アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル 12(2020)18-25

資料 調査票 (回答欄は省略)

1	男 / 女	年齢	日本語を勉強してどれぐらいですか	年	ヶ月	
2	英語のどの能力を上進させたいですか (上進させたい順に番号を付けてください)			金語 作文	聴解 読解 発音 語彙	
サンプル例 作文が1番になります				3 1 作文	4 2 聴解 発音 語彙	
3	あなたの日本語のレベルはどれぐらいですか 3つの中から1つ選んでください。			1. 初級	2. 中級	3. 上級
A 日本語学習のアンケート (質問に合う答えを次の1~5のなかから1つ選んでください)						
1. とても賛成 (2) 賛成 (3) 賛成でも反対でもない (4) 反対 (5) 強く反対						
1	外国語を学ぶのはやさしい					
2	私の国の人は外国語学習が得意である					
3	外国語(英語)は難しい言語だ					
4	外国語を学ぶには、外国の文化、人気のある音楽、映画、漫画などを知っているほうが便利だ					
5	外国語学習は大人より子供のほうが易しい					
6	外国語学習について特別な才能を持っている人がある					
7	母語が上手にならないと外国語は上達しない					
8	私は将来外国語(英語)を習得できると思っている					
9	外国語学習は時間がかかる					
10	教師による定期的な試験は学習者にとって助けになる					
11	私は外国語を学ぶための特別な才能を持っている					
12	外国人との英語の練習は楽しい					
13	外国語を習うとき、外国人に習うのが一番よい					
14	外国語学習には何度も練習することが大切だ					
15	女性は男性より外国語学習が得意である					
16	授業以外でも自習が必要だ					
17	私の最初の英語の先生に英語を学習するうえで大きな影響を受けた					
18	外国語を学ぶには、母語で文法の説明しているテキストが必要だ					
19	外国語には記憶力が必要だ					
20	きれいな発音で外国語を話すことが重要だ					
21	学習者の評価は教師からされるべきだ					
22	外国語の使い方の規則(パターン)がわかったら、おぼえやすい					
23	私は外国語学習について特別な才能を持っている					
24	外国語学習の中で一番重要なのは、語彙の学習である					
25	外国語を学習するとき、教師にアドバイスを求めるのが好きだ					
26	外国語を話すために外国の文化について知っている必要がある					
27	もし英語が上手であれば良い就職のチャンス(機会)がある					
28	母語で文法の説明をするには a 初級レベルだけ b 初級から中級レベル c 中級から上級レベル					
29	外国語学習の誤りは初級の段階で訂正しなければ、後で訂正するのは難しい。					
30	外国語学習はその外国語が話されている国で行うのが一番いい					
31	私は外国人の友達をつくりたい					
32	教室で学習者同士で外国語(英語)を話しても、学習の役に立たない					
33	たとえ自分のやり方と違っても先生のアドバイスにしたがう					
34	1つ以上外国語を話せる人はとても頭がいい					
35	外国語学習の中で一番重要なのは、文法の学習である					
36	宿題は教師から出されるべきだ					
37	外国語学習の方法は、他の分野の学習とは異なる					
38	外国語を話すより、読んだり書いたりするほうが易しい					
39	はっきりした目的があれば外国語の上達がはやくなる					
40	外国語を聞いて理解するよりも話すほうが易しい					
41	iPhoneのアプリやCDなどで練習することは重要だ					
42	すでに1つの外国語を習得している人は、ほかの言語を学ぶのが容易だ					
43	教師に自分の外国語学習上の問題点や困難点を教えてほしい					
44	もし、単語がわからなくても、推測すれば大丈夫だ					
45	学習者が積極的に教室活動に参加するような授業は良い授業だ					
46	学習内容は生徒のコミュニケーション能力が上達することに力を入れるべきだ					
47	わからない外国語の単語はかならず辞書で調べるべきだ					
48	授業中は先生が生徒に話させるより、聞いているだけのほうがいい。					
49	正しく言えるようになるまでは外国語で話すべきではない					
50	外国語学習に成功するにはいい教師が必要だ					